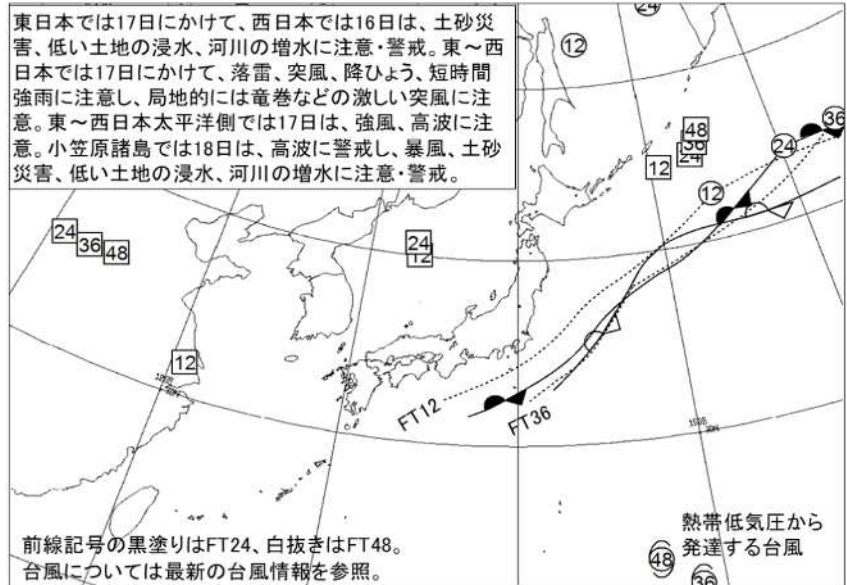


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m付近で -9°C 以下の寒気を伴う強風軸に対応する前線が、東海道沖から東日本を通して日本の東にのびている。本州の南海上では前線の暖域側で非常に激しい雨を解析し、発雷を多数検知。
- ② 南西諸島付近は気圧の谷となり、東風と北東風が収束し、300hPaで -30°C 以下の寒気の広がりの影響も受け、局地的に非常に激しい雨を解析し、発雷を検知。
- ③ 高気圧が日本海で、ほとんど停滞。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の強風軸は17日にかけて本州付近へ東進し、東～西日本の上空には寒気が広がる。前線は17日夜にかけて本州の南海上を、ゆっくり南下するが前線の北にも降水域が広がる。前線に向かう下層暖湿気やアリューシャンの南の太平洋高気圧の縁辺から流れ込む下層暖湿気と上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う非常に激しい雨の降る所がある。東日本では17日にかけて、西日本では16日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。東～西日本では17日にかけて、落雷、突風、降ひょう、短時間強雨に注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。千島近海には16日朝までに高気圧が発生し、17日夜にかけて千島近海を北東～北方向へ移動する。高気圧と前線との間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。東～西日本太平洋側では17日は、強風、高波に注意。
- ② 18日は、熱帯低気圧から発達する台風が小笠原近海を西北西進し、小笠原諸島に接近するおそれがある。2項①の千島近海の高気圧は、千島の東へ移動する。高気圧縁辺の風の強まりの影響で、波が高くなる所がある。また、台風の影響で非常に強い風が吹き、大しけとなる所がある。小笠原諸島では18日は、高波に警戒し、暴風に注意・警戒。北～西日本太平洋側では18日は、強風、高波に注意。台風周辺からの下層暖湿気の流れ込みの影響で、大気の状態が不安定となる所がある。小笠原諸島では18日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。小笠原諸島と九州では18日は、落雷、突風、急な強い雨に注意。2項①の本州の南海上の前線は東へ進み、次第に日本付近への影響は小さくなる。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。熱帯低気圧から発達する台風の進路や強度の予想には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：東海120、関東甲信100mm。

②波浪(明日まで)：東北・関東・伊豆諸島・東海・近畿3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。